

校長式辞

春爛漫の良き日、本日ここに、多くの方々からの祝福の中、埼玉県立川越西高等学校第四十三回入学式を挙げてまいりますことは、本校職員と在校生にとりまして、大きな喜びです。

先ほど入学を許可いたしました三百十八名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。43年目を迎えた伝統ある本校の一員として、新たに共に歴史を築く仲間として迎えられたことを、嬉しく思います。

奈良時代からの古（いにしえ）の人々が生活していたといわれる、登野山（とのやま）の小高い丘にある本校は、「敬愛・正義・努力」を校訓に、自然豊かな環境の中で、生徒たちはのびのびと学校生活を送っています。これから、先輩方とともに過ごす新入生の皆さんの活躍を楽しみにしています。

さて、松尾芭蕉が俳諧の理念として残した言葉に、「不易と流行」という言葉があります。

「不易」とは、「どのように時代が変わっても、その価値が変わらないもの」、「流行」とは、「その時代の移り変わりとともに変えていく必要があるもの」です。相反する言葉の意味に思えますが、両者の根本は一つであると説いています。

人は、人とのつながりの中で生活しています。相手の立場になって物事を考え、互いの立場や意見を尊重することで社会は成り立ち、自分らしさも生かされていると考えられます。そのためには、自分自身を理解し、自分らしさを発揮しながら、自分自身を大切にしなければなりません。

「人を思う気持ち」の大切さは、いつの時代も価値に変わりはないのです。

一方で、社会は今、大きな変化をしています。情報通信技術はさらに進化し「超スマート社会」といわれる段階に突入しています。イギリスのオックスフォード大学が2014年に認定した予測では、20年後までには、約5割の仕事が自動化され、人の雇用が必要なくなるといわれています。身近なところでは、平穏な生活が失われた新型コロナウイルス感染症との闘いで、新しいスタイルの生活を余儀なくされています。

時代に合わせた生活では、多くの情報を取り入れ、知識や経験を身に付け、主体的な行動力と思考力を駆使して、柔軟に対応していくことが必要となります。

現代を生きている私たちが、よりよい生活を構築するためには、変わらずに持ち続けなければいけないことと、時代の変化に応じて対応していかなければならないことがあるのです。

高校時代は、人が大きく変化することができる年齢といわれています。新たな体験や知識に出会い、自分が進化するきっかけを見つけてください。そして、人と共に行動する社会の中で、変わらずに持ち続けられる「自分の在り方」を確立してください。新入生の皆さん一人一人が、自らの能力を精一杯発揮し、個性を磨いて、大きく成長することをお祈りして、式辞とします。

令和三年四月八日

埼玉県立川越西高等学校長 長島 秀人